

中部ESD拠点運営委員会（第23回）議事メモ

日 時 平成22年1月7日（木）18時30分～20時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（8-C号室）

出席者 竹内委員長、千頭副委員長、寺井、羽後、高山、武者小路、今村、新海の各委員

事務局 永田、古澤

オブザーバー 村瀬、星野

議 事

1. 報告事項

○ キャンパスマネーについて

古澤事務局員より、キャンパスマネー事業について、昨年、愛知県と（NPO法人）エコデザイン市民社会フォーラムが中部ESD拠点運営委員会に広報依頼を行った、キャンパスマネー事業は、12月末を持って8大学9団体、すべての企画が終了し、中部大学では、12月12日（土）に、地産地消をテーマに若者会議を実施したことが報告された。

2. 第3回中部ESD拠点総会事後処理について

○ 総会資料の送付について

古澤事務局員より、これまで協議会参加団体への連絡はEメールにて行っていたが、今回の総会資料は郵送する旨が報告された。関連して、新年の挨拶文案を読み上げ、内容の確認が行われ、総会参加団体を含め、すべての団体へ送付することとした。

3. 第3事業年度のプロジェクト推進について

○ 新事業年度のプロジェクトの進め方について

第3回中部ESD拠点総会で承認された、第3事業年度のプロジェクト推進について、活動計画書を確認し、以下のように各項目ごとに進めて行くこととした。

1) 「伊勢三河湾流域圏プロジェクト」

- ・羽後委員より、1月24日（日）に第3回伊勢三河湾流域圏フォーラムが開催されること及びCOP10に向けて、さまざまな主体と連携する予定があることが報告された。また、流域圏データベース作成についての進め方は未定である。
- ・「伊勢湾再生研究プロジェクト」に関して、高山委員より、3月5日（金）に第4回中部ESD拠点連続講座として発表を行うことが提案され、承認された。
- ・「COP10に向けた活動」としては、伊勢三河湾流域圏プロジェクトも、サイバー対話と連携して地域の情報収集や議論等を行っていくことが確認された。

2) 「生物多様性条約締約国会議COP10への貢献事業」

武者小路委員より、サイバー対話に関する進捗状況の報告と、今後の進め方の提案が、下記の通り、3点に絞って行われた。

①日本語によるサイバー対話の進展

②英語によるサイバー対話の開始

③中部ESD拠点の開始したCOP10に向けてのサイバー対話への協力体制の拡大

日本語によるサイバー対話は、MLからSNSへ移行しつつあること、英語に関しては、MLに加え、今後、SNSサイトを充実させる予定であることなどが報告された。

また、③の協力体制の拡大に関連して、CBD市民ネットと共同で、ぎふNPOセンターを窓口に、経団連に対して資金助成を依頼したことが報告された。申請内容に関しては、項目によっては実現可能性に対する疑問が委員から出されたが、助成金の合否が決まる3月まで、議論を持ち越すこととした。今回の会議における武者小路委員からの報告は、情報共有として、3月にもし助成金を受けることができるようになった時点で、再度内容を精査して、修正すべき点は修正し、共同提案者であるCBD市民ネットと相談することとした。

「COP10開催期間中のサイドイベント開催」に関し、国際連携イベントに関しては、入場のための手続きについて意見交換が行われた。随時、情報を得た委員がML等を使って情報共有することとした。

また、国内RCEとの連携に関わる懸案事項として、場所の確保が上げられるが、この点に関しても、COP10支援実行委員会が4月にはじめる公募情報などの重要な情報があれば、運営委員会で共有すると共に、他の国内RCEへの情報提供も行うことが確認された。

COP10に関連して、飯吉拠点代表より、愛知学長懇話会との何らかの連携事業の実現の可能性を議論して欲しい旨の要請があったことが、古澤事務局員より報告され、種々議論が行われ、可能性のひとつとして、中部ESD拠点と愛知学長懇話会の連携ではなく、国連大学と愛知学長懇話会の連携事業を企画するという提案があり、飯吉代表に伝えることとした。

3) 「若者による伊勢・三河湾流域圏持続性戦略づくりプロジェクト」

竹内委員長より、若者プロジェクトに関して、助成金の申請を行っている旨が報告され、取れた時点で具体策を議論することとした。

「『地球憲章』大賞プロジェクト」に関しては、3月末までに企画案を作成することとし、竹内委員長、羽後委員、古澤事務局員でプロジェクトチームを組むこととした。また、環境省のESD表彰企画などとの連携の可能性も踏まえ、新海委員とも常に情報共有を行いながら進めることとした。

4) 「その他の活動」

○「第4回中部ESD拠点総会およびフォーラムの実施」

開催時期は、前回と同様に11月末から12月初旬とし、開催地候補は岐阜とすることとした。

○「RCE国内実務者会議」

昨年10月に開催したCOP10に向けた国内RCE連携のための会議にて、次回のRCE国内実務者会議は、名古屋で3月頃に開催することが決まった。COP10に向けた準備も行うため、2月中に、インフォーマルな情報収集や場所の確保などは中部ESD拠点が先行し、会合自体は予定通り3月に行うこととする。

○「第3回アジア太平洋RCE若者会議」

2月のはじめにインドのRCEデリーで開催することが決まっているため、参加できる若者の候補者に関して議論を行った。1月10日のメーリングリストの間に合うよう、候補者と連絡を取り、決定することとした。

4. その他

○ 運営委員会開催日の日程調整について

毎月の開催日（第〇〇曜日）を決めたほうが良いが、新年度にならなければ各委員の都合の良い曜日がわからないため、4月以降に決めることとした。今年度中の開催日は、2月12日（金）と、3月11日（木）とし、開始時刻はいずれも18時半とした。

以 上